

第4次農林水産業元気創造戦略 評価指標・目標指標達成状況一覧(令和6年8月末日現在)

資料2

令和3年達成状況集計

達成度	評価指標(KPI)			目標指標(目標が設定されている項目数:78)		
	項目数	割合	判明分	項目数	割合	判明分
達成	3	16.7%	16.7%	33	42.3%	42.3%
概ね達成	2	11.1%	11.1%	19	24.4%	24.4%
遅れ・未達成	13	72.2%	72.2%	26	33.3%	33.3%
計	18	100.0%		78	100.0%	
未公表等	0	0.0%		0	0.0%	

令和4年達成状況集計

達成度	評価指標(KPI)			目標指標(目標が設定されている項目数:80)		
	項目数	割合	判明分	項目数	割合	判明分
達成	4	22.2%	23.5%	29	36.3%	36.3%
概ね達成	6	33.3%	35.3%	26	32.5%	32.5%
遅れ・未達成	7	38.9%	41.2%	25	31.3%	31.3%
計	17	94.4%		80	100.0%	
未公表等	1	5.6%		0	0.0%	

令和5年達成状況集計

達成度	評価指標(KPI)			目標指標(目標が設定されている項目数:82)		
	項目数	割合	判明分	項目数	割合	判明分
達成	2	11.1%	40.0%	18	22.0%	26.9%
概ね達成	2	11.1%	40.0%	22	26.8%	32.8%
遅れ・未達成	1	5.6%	20.0%	27	32.9%	40.3%
計	5	27.8%		67	83.8%	
未公表等	13	72.2%		15	18.3%	

<達成度>
 達成(100%) : ■
 概ね達成(80~100%、かつ、策定時より上昇・改善) : ■
 遅れ・未達成(80%未満、又は、策定時より低下・悪化) : ■

No.	評価指標(KPI) プロジェクト目標指標	単位	現状	R3			R4			R5			最終 目標	年・年度
				基準 年・年度	R3 実績	達成率	達成度	R4 実績	達成率	達成度	R5 実績	達成率		

評価指標(KPI)

基本戦略1 意欲ある多様な担い手の育成・確保

1	新規就農者数の東北における順位	位	1	R2年度	1	1	100%	達成	動機付け段階から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことによる。	1	1	100%	達成	動機付け段階から就農初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことにより目標は達成。	1	R6年度					
2	スマート農業の取組件数(累計)	件	77	R1年度	105	112	107%	達成	県内各地域で技術の実証・展示を行ったことにより、取り組む農業者等が増加し、目標は達成。	120	134	112%	達成	技術の実証・展示を行ったこと、国のスマート農業推進導入補助事業により、取組み生産者が増加し目標は達成。	135	211	156%	達成	技術の実証・展示や農業用機械・機器等の導入に対する国の補助事業等の活用により、目標を大きく上回って達成。	150	R6年度

基本戦略2 活気あるしなやかな農村の創造

3	農地整備実施地区の大区分整備面積(累計)	ha	3,560	H30年度	4,130	4,108	99.5%	概ね達成	令和3年度に実施した区画整理工事のうち、約7割を大区分は場として整備し、目標は概ね達成。	4,320	4,287	99%	概ね達成	令和4年度に実施した区画整理工事のうち約7割を大区分は場として整備し、目標は概ね達成。	4,510	4,413	98%	概ね達成	令和5年度に実施した区画整理工事のうち約6割を大区分は場として整備し、目標は概ね達成。	4,700	R6年度
---	----------------------	----	-------	-------	-------	-------	-------	------	--	-------	-------	-----	------	---	-------	-------	-----	------	---	-------	------

基本戦略3 魅力ある稼げる農林水産業の追求

4	農業産出額	億円	2,480	H30年	2,547	2,337	92%	遅れ・未達成	前年より米及び果実の産出額が減少したことにより17億円の減額となり、目標は未達成。	2,571	2,394	93%	遅れ・未達成	前年より果実及び畜産の産出額が増加し、前年より57億円の増額となったものの目標は未達成。	2,591	未公表			2,620	R6年
5	米産出額	億円	835	H30年	855	701	82%	遅れ・未達成	令和3年度の米生産は、作況指数は104であったが、需減少に伴う価格低下から産出額は減少し、目標は未達成。	860	689	80%	遅れ・未達成	主食用米の作付面積が減少して収穫量が少なく、令和4年産概算金(A概算金から手数料を差し引いた試算値)が前年より高くなったものの産出額は減少し、目標は未達成。	865	未公表			868	R6年
6	果実産出額	億円	709	H30年	714	694	97%	遅れ・未達成	4月の凍害と開花期の天候不慮で、さくらんぼ、りんご等の収穫量減少により目標は未達成。	719	766	107%	達成	生産者の高品質・安定生産により収穫量が回復し、販売単価が高水準で推移したため目標は達成。	723	未公表			727	R6年
7	野菜産出額	億円	472	H30年	474	455	96%	遅れ・未達成	主要果実類の品目を中心に販売単価が低下したことや、葉菜類の主力品目であるほうろくアスパラガスが5月の降雪被害により生産量が減少したため、目標は未達成。	477	426	89%	遅れ・未達成	主要果実類の品目を中心に、8月の集中豪雨など生育期間中の天候不慮等の影響により生産量が減少したため、目標は未達成。	480	未公表			485	R6年
8	畜産産出額	億円	361	H30年	396	392	99%	概ね達成	規模拡大による飼養頭数の増加と生産性の向上により目標を概ね達成	404	411	102%	達成	需要回復に伴う県産肉牛の販売単価向上と、豚の販売単価増加により目標を達成	413	未公表			423	R6年
9	農業者当たり産出額	万円	639	H30年	670	612	91%	遅れ・未達成	前年より農業産出額が減少したこと減額し、目標は未達成。	693	665	96%	概ね達成	前年より農業産出額が増加したことで増額となり、目標を概ね達成。	718	未公表			745	R6年
10	生産農業所得の東北における順位	位	2	H30年	2	3	—	遅れ・未達成	農業産出額の減少に伴い生産農業所得が減少した。順位は前年と同じであり、目標は未達成。	2	3	—	遅れ・未達成	農業産出額は増加したものの、資材価格等の高騰で生産農業所得は減少した。順位は前年と同じであり、目標は未達成。	2	未公表			1	R6年
11	6次産業化付加価値額	億円	581	H30年	613	651	106%	達成	食料品製造業や飲料製造業等の付加価値額が増加したことにより、目標は達成。	625	未公表			637	未公表			650	R6年	
12	県産農産物の輸出額	億円	9	H30年度	12	9	75%	遅れ・未達成	令和3年度は各国の経済活動が徐々に再開したことに伴い輸出量は過去最高となった。輸出額は過去5年間で2割目に高い金額となったが単価の高い牛肉で伸び悩み目標を下回った。	13	10.5	81%	概ね達成	令和4年度はりんご等の輸出量が増加したことから、輸出量、輸出額ともに過去最高を更新し、目標は概ね達成。	14	未公表			15	R6年度

基本戦略4 「やまがた森林ノミクス」の加速化

13	林業産出額	億円	82	H30年	88	69	79%	遅れ・未達成	ウッドショックの影響で資材価格が上昇し、木材生産額は増加したが、きのこ類等産出額の減少により、目標は未達成となった。	90	87	97%	概ね達成	ウッドショックの影響による木材価格の高止まりが続いたことや、製材用、集成材用の原木需要が増加したことにより、概ね達成となった。	92	未公表			95	R6年	
14	きのこ類等産出額	億円	52	H30年	56	38	67%	遅れ・未達成	生産者の高齢化や産地間競争の激化により、生産量が落ち込んだこと、販売単価が下落したことにより、目標は未達成。	57	37	65%	遅れ・未達成	生産者の高齢化や産地間競争の激化により、生産量が落ち込んだことにより、目標は未達成。	59	未公表			60	R6年	
15	県産木材供給量	万m ³	53.5	R1年	60	52.7	88%	遅れ・未達成	R2にコロナの影響で木材の流通が停滞し、製材所向けの材が木質バイオマス施設に多く流れ在庫を抱えたことの影響により、R3の素材生産量が落ち込み、目標は未達成。	63	58	92%	概ね達成	ウッドショックにより、国産製材品需要が高まり、製材用、集成材用向けの原木需要が増えたことで、R4素材生産量が増加、目標は概ね達成。	67	59.1	88%	概ね達成	高性能林業機械の導入により林業労働生産性が向上したため、素材生産量は増加し、目標は概ね達成	70	R6年
16	再造林率	%	64	R1年度	100	72	72%	遅れ・未達成	再造林面積(分子)は伸びたが、コロナの影響で減少した主伐面積(分母)が、ウッドショックの影響等で急増したことにより、目標は未達成。	100	76	76%	遅れ・未達成	再造林面積(分子)は伸びたが、伐期期を超える山林の割合の増加やウッドショックの影響等で皆伐面積(分母)も増加したことにより、目標は未達成。	100	未公表			100	R6年度	

No.	評価指標(KPI) プロジェクト目標指標	単位	現状	基準 年・年度	R3 目標	R3年 実績		R3 達成率		R3 達成・未達成の理由	R4 目標	R4年 実績		R4 達成率		R4 達成・未達成の理由	R5 目標	R5年 実績		R5 達成率		R5 達成・未達成の理由	最終 目標	年・年度	
						達成率	達成度	達成率	達成度			達成率	達成度	達成率	達成度										
基本戦略5 水産業の成長産業化																									
17	漁業産出額（海面漁業・養殖業）	億円	22	H30年	28	22	79%	遅れ・未達成	令和3年は全国的に水産資源（サケ、イカなど）が不足し、本県においても主要魚種であるスルメイカ、サケ、タラ、ハタハタの漁獲量が大きく減少したことにより目標は未達成。	30	24	80%	概ね達成	県外船によるスルメイカの水揚げが一定量あったことにより目標は概ね達成。	32	未公表							35	R6年	
18	経営体当たり海面漁業生産額	万円	695	H30年	772	617	80%	遅れ・未達成	令和3年は全国的に水産資源（サケ、イカなど）が不足し、本県においても主要魚種であるスルメイカ、サケ、タラ、ハタハタの漁獲量が大きく減少した。	798	621	78%	遅れ・未達成	本県の主力魚種であるスルメイカ、ハタハタの漁獲量が大きく減少したことにより目標は未達成。	824	631	77%	遅れ・未達成					850	R6年	
プロジェクト目標指標																									
基本戦略1 意欲ある多様な担い手の育成・確保																									
①人材育成・確保																									
(1)	新規就農者数（4年間の累計）	人	1,354	H29～R2年度	360	357	99%	概ね達成	動機付け段階から就業初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことによる。	720	715	99%	概ね達成	動機付け段階から就業初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことにより目標は達成。	1,090	1,093	100%	達成					1,460	R6年度	
(2)	無料職業紹介所等におけるマッチング数	件	585	R2年度	600	397	66%	遅れ・未達成	さくらんぼでは凍害害により求人数が減少したほか、狭豆では令和2年度はコロナの影響による休業等で一時的に求職者が増加したが、令和3年度は営業再開に伴い求職者が減少。	650	392	60%	遅れ・未達成	さくらんぼでは、令和3年度の凍害害による労働力需要低下から回復し成立数が増加。他品目では、労働条件の不一致や求職者の高齢化等により成立に至らない事例等が見られた。	700	400	57%	遅れ・未達成	水稲、野菜、花きでの成立数が増加したが、さくらんぼでの成立数が減少したため、目標は未達成。					750	R6年度
(3)	農福連携に取り組む経営体等	組織	59	R2年度	70	85	121%	達成	農業側と福祉側の相互理解を進めるため、農業体験会や現地視察、研修会等の取組みを実施していることによる。	80	94	118%	達成	農業側と福祉側の相互理解を進めるため、農業体験会や現地視察、研修会等の取組みを実施していることによる。	90	108	120%	達成					100	R6年度	
(4)	しあわせアグリビジネスプラン件数（累計）	件	76	R2年度	84	86	102%	達成	次世代リーダー育成セミナーとして「アグリウーマン塾」を開催し、講義、演習、個別相談を組み合わせた、女性農業者の経営改善、経営参画サポートを行い、目標は達成。	92	97	105%	達成	次世代リーダー育成セミナーとして「アグリウーマン塾」を開催し、講義、演習、個別相談を組み合わせた、女性農業者の経営改善、経営参画サポートを行い、目標は達成。	100	115	115%	達成					108	R6年度	
(5)	東北農林専門職大学の令和6年4月開学	—	—	—	—	—	—	—	—	—	認可申請	認可申請	—	達成	令和6年4月の開学に向け、令和4年10月20日に文部科学省へ大学設置認可申請書を提出したことにより目標は達成	認可	認可	—	達成				開学（入学者40名）	R6年	
②担い手・経営体育成																									
(6)	農産物販売額1,000万円以上の経営体数	経営体	3,442	R2年	3,600	3,300	92%	遅れ・未達成	令和2年7月の豪雨被害により、収入が減少した経営体が多かったことから、目標は未達成となった。	3,750	3,700	99%	概ね達成	農業用機械・施設等の導入に対する国の補助事業等の積極的な活用により、目標は概ね達成。	3,900	3,300	85%	遅れ・未達成	令和4年8月の大雨による被害等により、収入が減少した経営体が多かったことから、目標は未達成となった。					4,050	R6年
(7)	農産物販売額3,000万円以上の経営体数	経営体	631	R2年	659	600	91%	遅れ・未達成	令和2年7月の豪雨被害により、収入が減少した経営体が多かったことから、目標は未達成となった。	686	700	102%	達成	農業用機械・施設等の導入に対する国の補助事業等の積極的な活用により、目標は達成。	713	600	84%	遅れ・未達成	令和4年8月の大雨による被害等により、収入が減少した経営体が多かったことから、目標は未達成となった。					740	R6年
(8)	農産物販売額1億円以上の経営体数	経営体	122	R2年	128	100	78%	遅れ・未達成	令和2年7月の豪雨被害により、収入が減少した経営体が多かったことから、目標は未達成となった。	133	100	75%	遅れ・未達成	農業用機械・施設等の導入に対する国の補助事業等の積極的な活用に取り組んだが、販売金額1億円を超えるまでには至らず、目標は未達成。	138	100	72%	遅れ・未達成	農業用機械・施設等の導入に対する国の補助事業等の積極的な活用に取り組んだが、販売金額1億円を超えるまでには至らず、目標は未達成。					143	R6年
(9)	新規就農者受入協議会等の設置数	組織	15	R2年度	20	15	75%	遅れ・未達成	市町村へ新規就農者受け入れ体制構築に係る先行事例や優良事例の紹介、県独自事業による協議会への支援情報提供の不足	25	15	60%	遅れ・未達成	市町村へ新規就農者受け入れ体制構築に係る先行事例や優良事例の紹介、県独自事業による協議会への支援情報提供の不足	30	15	50%	遅れ・未達成	令和5年度から協議会設立に対する補助事業を開始し、新設を検討する自治体も現れてきたが設立までには至らず、目標は未達成。					35	R6年度
(10)	女性新規就農者数	人	56	R2年度	60	94	157%	達成	動機付け段階から就業初期に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことによる。また、農業法人の増加に伴い女性の働く場が増え、労働環境も改善されたことによる。	70	82	117%	達成	動機付け段階から就業初期段階に至るまで、関係機関と連携し、きめ細かな支援を行ったことによる。また、農業法人等、女性が働きやすい労働環境整備が進んだことにより目標は達成。	85	86	101%	達成					100	R6年度	
(11)	農業法人数	法人	752	R2年度	780	771	99%	概ね達成	山形県農業経営相談所及び各総合支庁の農業経営支援チームを中心に、農業団体、専門家等と連携し、法人化及び経営発展を支援してきたことによる。	820	815	99%	概ね達成	山形県農業経営・就業支援センター及び各総合支庁の農業経営支援チームを中心に、農業団体、専門家等と連携し、法人化及び経営発展を支援してきたことにより目標は概ね達成。	860	841	98%	概ね達成					900	R6年度	
(12)	担い手への農地集積率	%	66.4	R1年度	75	69	92%	概ね達成	県内4地域の「地域支援チーム」を中心に、市町村の抱える課題へ対応し、進捗状況の共有を図るなど、農地集積・集約化に向けた取組みを進めてきたことにより、目標を概ね達成。	80	70	88%	概ね達成	県内4地域の「地域支援チーム」を中心に、市町村の抱える課題へ対応し、進捗状況の共有を図るなど、農地集積・集約化に向けた取組みを進めてきたことにより、目標を概ね達成。	85	71.1	84%	概ね達成	県内4地域の「地域支援チーム」を中心に、市町村の抱える課題へ対応し、進捗状況の共有を図るなど、農地集積・集約化に向けた取組みを進めてきたことにより、目標を概ね達成。					90	R6年度
(13)	農地中間管理機構関連農地整備事業による農地整備面積（累計）	ha	3	R1年度	80	66	83%	概ね達成	農地中間管理事業の活用により事業推進を図っている。事業の周知とともに、機構集積協力のPRや県内の優良事例の紹介により面積向上に繋がっており、目標は概ね達成。	150	140	93%	概ね達成	農地中間管理事業の活用により事業推進を図っている。事業の周知とともに、機構集積協力のPRや県内の優良事例の紹介により面積向上に繋がっており、目標は概ね達成。	220	189	86%	概ね達成	農地中間管理事業の活用により事業推進を図っている。事業の周知とともに、機構集積協力のPRや県内の優良事例の紹介により面積向上に繋がっており、目標は概ね達成。					300	R6年度
(14)	スマート農業の取組件数（累計）	件	77	R1年度	105	112	107%	達成	県内各地域で技術の実証・展示を行ったことにより、取り組む農業者等が増加した。	120	134	112%	達成	技術の実証・展示を行ったこと、国のスマート農業機械導入補助事業により、取組み生産者が増加し目標は達成。	135	211	156%	達成	技術の実証・展示や農業用機械・機器等の導入に対する国の補助事業等の活用により、目標を大きく上回って達成。					150	R6年度
(15)	新農業情報ポータルサイトのSNSの登録利用者数	人	—	R2年度	サイト稼働	サイト稼働	—	達成	計画通り新農業情報ポータルサイトの構築作業を実施、サイトを稼働した。Facebookに加え、Twitter、YouTubeのアカウントを開設した。	150	100	67%	遅れ・未達成	ポータルサイトは稼働したがYouTubeへの動画投稿ができていなかったため、SNS等の登録者数が目標に達しなかったため、目標は未達成。	350	156	45%	遅れ・未達成	ポータルサイト本体の会員登録者数は順調に増加しているが、SNSの独自コンテンツの作成が遅れているためSNS登録者数の増加が少なく未達成。					550	R6年度
(16)	農業経営のセーフティネットの加入推進組織の立ち上げ	—	—	R2年度	設立	設立	—	達成	行政、農業関係団体、各制度の実施主体等で構成する「山形県農業セーフティネット加入促進協議会」を設立するとともに、県内4地域に地域連絡会議を設置した。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	設立	R3年度		
(17)	青色申告者に占める収入保険の加入割合	%	17.8	R3年度	—	—	—	—	—	—	24.6	33	134%	達成	市町村と協議による掛捨て保険料の助成事業について、全市町村が予算化し、加入を推進したことにより目標を達成。	35.0	35.8	102%	達成	タスクチームの取組みで収入保険への加入促進活動が活発に行われ、農業者の経営リスクへの意識が高まり加入が進んだため、目標を達成。				35.0	R6年度

No.	評価指標(KPI) プロジェクト目標指標	単位	現状	R3		R3年		R3		R4		R4年		R4		R5		R5年		R5		最終 目標	年・年度
				目標	実績	達成率	達成度	達成・未達成の理由	目標	実績	達成率	達成度	達成・未達成の理由	目標	実績	達成率	達成度	達成・未達成の理由					
基本戦略2 活気あるしなやかな農村の創造																							
③基盤強化・強靱化																							
(18)	農地整備実施地区の大区域整備面積(累計)	ha	3,560	H30年度	4,130	4,108	99.5%	概ね達成	令和3年度に実施した区画整理工事のうち、約7割を大区域ほ場として整備し、目標は概ね達成。	4,320	4,287	99%	概ね達成	令和4年度に実施した区画整理工事のうち約7割を大区域ほ場として整備し、目標は概ね達成。	4,510	4,413	98%	概ね達成	令和5年度に実施した区画整理工事のうち約6割を大区域ほ場として整備し、目標は概ね達成。	4,700	R6年度		
(19)	基盤整備を実施した農地での担い手に集約化される割合(累計)	%	41	H30年度	84	83.7	99.6%	概ね達成	農地整備事業を契機に、水田における担い手への農地集積・集約化が進み、目標は概ね達成	86	84.0	98%	概ね達成	農地整備事業を契機に、水田における担い手への農地集積・集約化が進み、目標は概ね達成	88	未公表			90	R6年度			
(20)	大規模園芸団地の数(累計)	団地	20	R2年度	22	21	95%	概ね達成	団地の要件を厳しくしたことにより、これまで団地化を検討していた地域が取り組みなくなり、1団地のみの形成に留まっているため。	24	21	88%	概ね達成	資材価格高騰の影響等により、1団地の形成に留まっている。	26	21	81%	概ね達成	資材価格高騰の影響や水田活用の直接交付金の対象水田の見直し等により、1団地の形成に留まっている。	28	R6年度		
(21)	水田畑地化整備面積(累計)	ha	2,580	R1年度	3,130	2,922	93%	概ね達成	高収益作物(園芸作物等)への転換を後押しする排水改良や地下水かんがい導入等の水田の畑地化・汎用化による基盤整備を支援し、目標は概ね達成	3,350	3,030	90%	概ね達成	高収益作物(園芸作物等)への転換を後押しする排水改良や地下水かんがい導入等の基盤整備を推進し、目標は概ね達成。	3,630	3,096	85%	概ね達成	高収益作物(園芸作物等)への転換を後押しする排水改良や地下水かんがい導入等の基盤整備を推進し、目標は概ね達成。	4,000	R6年度		
(22)	果樹団地の面積(累計)	ha	0	R3年度	—	—	—	—	—	20	0	0%	遅れ・未達成	事業初年度で生産者への事業周知がまだ十分でなく、団地化に向けた地域の合意形成や農地の選定・確保には時間がかかっているため。	40	9.6	24%	遅れ・未達成	次第に事業が認知されニーズが高まっているものの、団地化に向けた地域の合意形成や農地の選定・確保には時間を要するため、事業計画の策定まで至るケースが未だ少ない状況である。	60	R6年度		
(23)	優先する防災重点農業用ため地の対策実施率	%	30.5	R2年度	42	45.1	107%	達成	防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策による重点的な予算配分を受け、計画に沿った対策工事が実施できたため。	55	53	96%	概ね達成	防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策による重点的な予算配分を受け、概ね計画に沿った対策工事が実施できたため。	67	56	84%	概ね達成	工事実施に向けた地元同意に時間を要しているものの、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策による重点的な予算配分を受け、概ね計画に沿った対策工事が実施できたため。	80	R6年度		
(24)	鳥獣による農作物被害額	百万円	464	R1年度	415	407	102%	達成	侵入防止柵設置、パトロール、追払い及び捕獲等を組み合わせた、住民主体の集落単位による被害対策ができるよう市町村と連携した支援を行い、対策が普及したことで、目標は達成。	390	357	108%	達成	侵入防止柵設置、パトロール、追払い及び捕獲等を組み合わせた、住民主体の集落単位による被害対策ができるよう市町村と連携した支援を行い、対策が普及したことで、目標は達成。	370	418	87%	概ね達成	(実績は速報値)	350	R6年度		
④地域活性化																							
(25)	県の支援による活力ある地域づくりの実践件数(H26からの累計)	件	27	R2年度	39	43	110%	達成	中山間地域において、集落の将来像を示す集落戦略の策定に向けた地域の話し合いをきっかけに、行動計画に掲げた活動内容を実施する地域が増加しており、目標は達成。	51	57	112%	達成	中山間地域において、集落の将来像を示す集落戦略の策定に向けた地域の話し合いをきっかけに、行動計画に掲げた活動内容を実施する地域が増加しており、目標は達成。	63	79	125%	達成	中山間地域において、集落の将来像を示す集落戦略の策定に向けた地域の話し合いをきっかけに、行動計画に掲げた活動内容を実施する地域が増加しており、目標は達成。	75	R6年度		
(26)	中山間地域の農地保全取組面積	ha	8,434	R2年度	8,540	8,872	104%	達成	協定農用地の将来像を示す集落戦略の策定に向けた地域の話し合いへの支援や、農地管理の省力化支援等、農地保全取組面積の維持・拡大に向けた取組みを実施し、目標は達成。	8,640	8,992	104%	達成	協定農用地の将来像を示す集落戦略の策定に向けた地域の話し合いへの支援や、農地管理の省力化支援等、農地保全取組面積の維持・拡大に向けた取組みを実施し、目標は達成。	8,740	9,011	103%	達成	協定農用地の将来像を示す集落戦略の策定に向けた地域の話し合いへの支援や、農地管理の省力化支援等、農地保全取組面積の維持・拡大に向けた取組みを実施し、目標は達成。	8,850	R6年度		
(27)	棚田地域振興法における指定棚田地域振興活動計画の認定地区数(累計)	地区	3	R2年度	6	5	83%	概ね達成	山形市及び白鷹町の2地区が活動計画認定に至った。他3市1町に対し申請の動きかけを行ったものの、地域長の意向が得られず申請に至らなかったため。	9	5	56.0%	遅れ・未達成	活動計画認定に関心の高そうな市町村担当に対し、個別にヒアリング等を実施したものの、認定に必要な目標設定のハードルが高いことから、取組拡大に至っていない。	12	5	42%	遅れ・未達成	次年度の認定に向けて準備を進めている地域もあるが、認定に必要な目標設定のハードルが高いことから、取組拡大に至っていない。	15	R6年度		
(28)	小水力発電出力の合計(累計)	KW	1,927	R2年度	2,060	1,927	94%	概ね達成	農業水利施設を活用して小水力発電施設の導入を計画している民間発電事業者に対し、導入に向けた関係機関との調整や関連協議について指導・助言等を行い、目標は概ね達成。	2,240	1,927	86%	概ね達成	農業水利施設を活用して小水力発電施設の導入を計画している民間発電事業者に対し、導入に向けた関係機関との調整や関連協議について指導・助言等を行い、目標は概ね達成。	2,438	2,176	89%	概ね達成	県営事業により建設した2発電施設が運用を開始し、目標を概ね達成した。	2,573	R6年度		
(29)	木質バイオマス供給量[関連]	千t	202	R1年	227	182	80%	遅れ・未達成	R21コロナの影響で木材の流通が停滞し、製材所向けの材が木質バイオマス施設に多量に在庫を抱え、R3の供給量が減ったことにより、目標は未達成。	240	179	75%	遅れ・未達成	ウッドショックにより、製材用・集材材用の原木需要が増加したことで、木質バイオマス用原木の供給が微減したことにより、目標は未達成。	252	206	82%	概ね達成	木質バイオマス施設の需要に対応するため、素材生産量が増加したことにより、目標は概ね達成	265	R6年		
⑤環境保全型農業																							
(30)	特別栽培農産物認証面積	ha	14,800	R1年度	15,600	14,626	94%	遅れ・未達成	制度説明会の開催や環境直払等支援策の活用促進に取り組み、特別栽培認証面積の増加には至らず、目標は未達成。	16,000	14,555	91%	遅れ・未達成	認証制度説明会の開催や環境直払等支援策の活用促進に取り組み、環境直払取組面積は増加したが、特別栽培認証面積の増加には至らず、目標は未達成。	16,400	14,633	89%	遅れ・未達成	認証制度説明会の開催や環境直払等支援策の活用促進に取り組み、特別栽培認証面積は前年度より増加したが、目標は未達成。	16,800	R6年度		
(31)	国際GAP認証取得件数(累計)	件	36	R1年度	38	44	116%	達成	認証取得に係る費用について、国交付金を活用したこと、現場の普及員による丁寧な指導があり、取得の増加に結びつき、目標を達成した。	42	45	107%	達成	認証取得を啓発する研修会を開催し、また、審査費用等について国交付金を活用したこと、更に現場の普及員による丁寧な指導があり、取得の増加に結びつき、目標は達成。	46	50	109%	達成	認証取得を啓発する研修会を開催し、また、審査費用等について国交付金を活用したこと、更に現場の普及員による丁寧な指導があり、取得の増加に結びつき、目標は達成。	50	R6年度		
(32)	堆肥の施用面積	ha	3,473	R4年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3,600	3,532	98%	概ね達成	肥料高騰で堆肥等の活用が目目されるなかで環境保全型農業直接支払交付金の推進や産地生産者塾・パワーアップ事業を活用した認証に取り組み、目標は概ね達成。	3,800	R6年度		
基本戦略3 魅力ある稼げる農林水産業の追求																							
⑥土地利用型作物																							
(33)	「つや姫」の相対取引価格の全国順位	位	2	R2年	2	2	100%	達成	高品質・良食味米の安定生産を図りながら、トップブランド米としての評価確立に向けた販促・PR活動を展開することで、目標は達成。	2	2	100%	達成	高品質・良食味米の安定生産を図りながら、トップブランド米としての評価確立に向けた販促・PR活動を展開することで、目標は達成。	1	2	—	遅れ・未達成	高品質・良食味米の安定生産や「つや姫」の評価の更なる向上に向けた販促・PRを展開しながら、「つや姫」は全国トップブランド米としての地位を確立しているものの、目標は未達成。	1	R6年		
(34)	「雪若丸」の全国認知度	%	33	R2年	60	31.0	52%	遅れ・未達成	テレビCMの制作・放映、SNSを活用した情報発信やキャンペーンの展開を行ったが、県外での認知度が伸び悩み、目標は未達成。	80	34.5	43%	遅れ・未達成	テレビCMの制作・放映、SNSを活用した情報発信やキャンペーンの展開により、認知度は上昇しているものの、目標は未達成。	80	43.7	55%	遅れ・未達成	テレビCMを核としたクロスメディアプロモーション等の展開により、徐々に認知度が向上しているものの、目標は未達成。	80	R6年		
(35)	「生産の目安」の範囲内における主食用米生産	%	100	R2年	100	100	100%	達成	関係機関・団体が連携して慎重に「生産の目安」を設定するとともに、その目安に沿った米生産をオール山形体制で推進したことで、目標は達成。	100	100	100%	達成	関係機関・団体が連携して慎重に「生産の目安」を設定するとともに、その目安に沿った米生産をオール山形体制で推進したことで、目標は達成。	100	100	100%	達成	関係機関・団体が連携して慎重に「生産の目安」を設定するとともに、その目安に沿った米生産をオール山形体制で推進したことで、目標は達成。	100	R6年		
(36)	大豆「里のほほえみ」「シュウリュウ」作付面積拡大	ha	2,654	R1年	2,800	2,589	92%	遅れ・未達成	各地域に展示ほを設置、研修会等を通じた技術の普及を進めたが、一部で飼料用米等への転換が進んだことから大豆全体の作付減少にともない、目標は未達成。	3,000	2,792	93%	概ね達成	各地域に展示ほを設置、研修会等を通じた技術の普及を進めたことから、対象品種の作付は拡大し、目標は概ね達成。	3,200	2,834	89%	概ね達成	各地域に展示ほを設置、研修会等を通じた技術の普及を進めたことから、面積は増加して目標は概ね達成。	3,500	R6年		
(37)	そば「山形BW5号」作付面積拡大	ha	79	R1年	100	85	85%	概ね達成	重点品種として県内各地域に展示ほを設置し、普及を進めたことにより、目標は達成。	120	96	80%	概ね達成	重点品種として県内各地域の展示ほ設置を継続し、普及を進めたことから、面積は増加して目標は概ね達成。	140	122	87%	概ね達成	重点品種として展示ほ設置を継続し、普及を進めたことから、面積が増加して目標は概ね達成。	160	R6年		

No.	評価指標 (KPI) プロジェクト目標指標	単位	現状	基準 年・年度	R3 目標	R3年 実績		R3 達成率		R3 達成・未達成の理由	R4 目標	R4年 実績		R4 達成率		R4 達成・未達成の理由	R5 目標	R5年 実績		R5 達成率		R5 達成・未達成の理由	最終 目標	年・年度	
						達成率	達成度	達成率	達成度			達成率	達成度	達成率	達成度										
(7)果樹																									
(38)	さくらんぼ産出額	億円	351	H26～30年平均	353	319	90%	遅れ・未達成	4月の凍霜害と開花期の天候不良のための収穫量の減少により目標は未達成	355	378	106%	達成	収穫量が前年より増加し、販売単価が高水準で推移したため目標を達成	357	未公表							360	R6年	
(39)	西洋なし産出額	億円	56	H26～30年平均	56	58	104%	達成	4月の凍霜害で収穫量が減少したが、販売単価が高かったことにより目標は達成	57	66	116%	達成	収穫量が前年より増加し、販売単価が高水準で推移したため目標を達成	57	未公表							58	R6年	
(40)	りんご10a当たり収穫量	kg/10a	2,020	H27～R1年平均	2,060	1,530	74%	遅れ・未達成	4月の凍霜害と開花期の天候不良のための収穫量減少により目標は未達成	2,100	1,990	95%	遅れ・未達成	作柄は概ね平年並みであったが、一部地域で降雪による減収が見られた	2,150	1,500	70%	遅れ・未達成	夏季の高温・少雨により、早生、中生品種を中心に、日焼けや着色遅延、生理落果が発生したことから収量が少なくなり、目標は未達成					2,200	R6年
(41)	ぶどう産出額	億円	108	H26～30年平均	114	148	130%	達成	4月の凍霜害のため収穫量が減少したが、高単価の大粒種の増加により目標は達成	121	137	113%	達成	収穫量は前年をやや下回ったが、高単価の大粒種の増加により目標は達成	128	未公表							135	R6年	
(42)	もも産出額	億円	29	H26～30年平均	30	48	160%	達成	大玉の中晩生品種の導入が進み栽培面積が増え、高単価のギフト向け販売の増加により目標は達成	32	47	147%	達成	大玉の中晩生品種の導入が進み、高単価のギフト向け販売の増加により目標は達成	34	未公表							36	R6年	
(43)	かき10a当たり収穫量	kg/10a	880	H27～R1年平均	880	720	82%	遅れ・未達成	4月の凍霜害による着果数の減少のため目標は未達成	910	886	97%	概ね達成	奇形果、くぼみ果の発生が多く、摘果で対応したことから着果数がやや少なく目標は未達成	940	741	79%	遅れ・未達成	収穫直前に、庄内地域広域で凍霜害が複数回発生したため、収穫量が少なくなり、目標は未達成					1,000	R6年
(44)	すもも産出額	億円	8	H26～30年平均	8	10	125%	達成	大玉の中晩生品種の導入が進み、高単価のギフト向け販売の増加により目標は達成	9	10	111%	達成	大玉の中晩生品種の導入が進み、高単価のギフト向け販売の増加により目標は達成	9	未公表							10	R6年	
(8)野菜・花き																									
(45)	えだまめ産出額	億円	49	R2年	50	47	94%	遅れ・未達成	生育が順調に経過し、生産量は前年を上回ったものの、出荷期が競合する産地も豊作傾向で、販売単価が前年より低下したため、目標は未達成	51	40	78%	遅れ・未達成	8月の集中豪雨等の影響のため、生産量が前年を大きく下回ったこと、競合産地の出荷集中や物価高騰による需要減少等のため、販売単価が前年をやや下回ったことにより、目標は未達成	52	未公表							53	R6年	
(46)	高収益野菜(トマト、メロン、きゅうり、すいか)の産出額	億円	164	H26～30年平均	172	182	106%	達成	すいかとメロンについては、産地と関係機関が一体となった取組みにより、安定生産やブランド強化が図られてきており、それに伴い単価が上昇しているため、目標は達成	180	176	98%	概ね達成	すいかとメロンについては交配期の天候不順、トマトやきゅうりについては生育期間中の高温や、日照不足等により生産量が減少したものの、販売単価が高水準で推移したため目標は概ね達成	188	未公表							197	R6年	
(47)	土地利用型野菜(アスパラガス、ねぎ、にら)の産出額	億円	54	H26～30年平均	59	64	108%	達成	アスパラガス、ねぎについては、共同選果施設の整備等により、栽培面積が増加しているため、目標は達成	64	66	103%	達成	アスパラガスやにらについては、生育が順調に経過し、生産量が前年を上回ったため、目標は達成	69	未公表							75	R6年	
(48)	花き産出額	億円	70	H26～30年平均	74	60	81%	遅れ・未達成	燃油価格の高騰等の影響を受け、ばら、トルコギきょう、ゆりなど主要花きの生産が減少しており、目標は未達成	77	70	91%	概ね達成	生産量は減少したものの、新型コロナウイルスの影響により減じた業務需要の回復により、販売単価が上昇したため、目標は概ね達成	80	未公表							83	R6年	
(49)	やまがた方式次世代施設園芸導入組織の数	か所	4	R2年度	5	5	100%	達成	ICT環境モニタリング装置、換気用の自動巻取り装置、ミスト発生装置等を導入したやまがた方式次世代施設園芸の拠点が増加し、目標は達成	6	6	100%	達成	ICT環境モニタリング装置、換気用の自動巻取り装置、ミスト発生装置等を導入したやまがた方式次世代施設園芸の拠点が増加し、目標は達成	7	6	86%	概ね達成	組織内での個別導入は進んだが資材高騰の影響等により、新規の組織への導入はみられなかった					8	R6年度
(9)畜産																									
(50)	畜産産出額	億円	361	H30年	396	392	99%	概ね達成	規模拡大による飼養頭数の増加と生産性の向上により目標を概ね達成	404	411	102%	達成	需要回復に伴う県産牛の販売単価向上と、豚の販売単価増加により目標を達成	413	未公表							423	R6年	
(51)	農業者当たり肉用牛産出額	万円	1,619	H29年	1,908	2,195	115%	達成	規模拡大による飼養頭数の増加と生産性の向上により目標を達成	1,938	2,496	129%	達成	規模拡大による農家一戸あたりの飼養頭数及び販売額の増加により目標を達成	1,984	未公表							2,015	R6年	
(52)	経産牛1頭当たりの生乳生産量	kg	7,578	R1年	7,700	7,337	95%	遅れ・未達成	農家戸数減に伴う生乳生産量の減少により目標が未達成	7,750	7,057	91%	遅れ・未達成	搾乳牛頭数及び生乳生産量は増加したが、1産目の頭数割合が増えたことにより1頭当たりの生乳生産量が減少した	7,800	7,030	90%	遅れ・未達成	高齢牛の頭数割合が増えたことや夏季における暑熱の影響から、1頭当たりの生乳生産量が減少したことにより目標は未達成					7,850	R6年
(53)	豚の飼養頭数	頭	154,600	R1年	160,000	166,600	104%	達成	規模拡大による飼養頭数の増加と生産性の向上により目標を達成	165,000	184,900	112%	達成	規模拡大による飼養頭数の増加と生産性の向上により目標を達成	170,000	169,600	100%	概ね達成	規模拡大による飼養頭数の増加と生産性の向上により目標を概ね達成					175,000	R6年
(54)	肉用鶏の飼養頭数(やまがた地鶏を含む)	千羽	660	R1年	670	677	101%	達成	規模拡大による飼養頭数の増加と生産性の向上により目標を達成	675	650	96%	遅れ・未達成	規模拡大に伴う鶏舎等の整備により飼育羽数が増加してきたが、一部の生産者の廃業により目標は未達成	680	614	90%	遅れ・未達成	一部の生産者の廃業により目標は未達成					685	R6年
(55)	稲発酵粗飼料作付面積	ha	922	R1年	940	966	103%	達成	作付け後の主食用米作付面積削減に伴う、WCS用稲への用途転換により目標を達成	970	1,115	115%	達成	規模拡大が進んだこと、飼料高騰で自給粗飼料の需要が増加したことにより目標を達成	1,020	1,239	121%	達成	肉用牛の一貫経営化による新たな粗飼料需要に対応したこと、飼料価格高騰で自給粗飼料の需要が増加したことにより目標を達成					1,100	R6年
(56)	子実用トウモロコシ作付面積	ha	64	R4年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	80	89	111%	達成	生産と利用のマッチングが進んだこと、飼料高騰で自給穀物飼料の需要が増加したことにより目標を達成			120	R6年度
(57)	農場HACCP認定数	農場	16	R1年	20	22	110%	達成	関係機関と連携した指導体制により目標を達成	22	23	105%	達成	関係機関と連携した指導体制により目標を達成	24	23	96%	概ね達成	関係機関と連携した指導体制により目標を概ね達成					26	R6年

No.	評価指標(KPI) プロジェクト目標指標	単位	現状	基準 年・年度	R3 目標	R3年 実績		R3 達成率	R3 達成度	R3 達成・未達成の理由	R4 目標	R4年 実績		R4 達成率	R4 達成度	R4 達成・未達成の理由	R5 目標	R5年 実績		R5 達成率	R5 達成度	R5 達成・未達成の理由	最終 目標	年・年度
						達成率	達成度					達成率	達成度					達成率	達成度					
10 6次産業化																								
(58)	6次産業化に取り組む事業者のE/C参加率	%	21.3	R1年	28	27.9	99.6%	概ね達成	インターネット販売や、オンラインを活用した新たな販売促進の取組を行う農林漁業者等に対し、新規E/Cサイト開設・リニューアル等に係る経費の補助を実施。目標は概ね達成。	32	31.7	99%	概ね達成	デジタル技術を活用した販路拡大等に取り組む産地直売所や観光農園等に対し、ウェブサイト開設に係る経費の補助を実施。目標は概ね達成。	36	32.4	90%	概ね達成	販売チャンネルの多角化に取り組む農林水産業者等や産地直売所の県産農林水産物を販売するためのE/Cサイト出店に係る費用の補助を実施。目標は概ね達成。	40	R6年			
(59)	農産・農家レストラン等の取組を推進する地域の数(累計)	か所	11	R1年度	13	11	85%	概ね達成	目標の85%を達成したものの、コロナ感染拡大の影響により、利用者が減少し地域の機運が高まらなかったことが課題となっている。	15	12	80%	概ね達成	農産推進に向けた研修会を実施し、目標は概ね達成。	17	16	94%	概ね達成	農産推進に向けた研修会を実施し、目標は概ね達成。	20	R6年度			
(60)	食品製造業等における県産農林水産物の使用割合(重量ベース)	%	40.7	R1年	42.5	41.6	98%	概ね達成	県内産地・農林水産業と食品製造業に関する情報収集・分析を行い、マッチング機能を強化。目標は概ね達成。	43.4	40.5	93%	概ね達成	県内産地・農林水産業と食品製造業に関する情報収集・分析を行い、マッチング機能を強化。目標は概ね達成。	44.2	41.2	93%	概ね達成	県内産地・農林水産業と食品製造業に関する情報収集・分析を行い、マッチング機能を強化。目標は概ね達成。	45	R6年			
(61)	産地直売所販売額	億円	118.4	R1年	127	126	99%	概ね達成	コロナ感染拡大の影響により、イベントによる売り上げは減少したものの、果ごり需要の影響もあり、目標は概ね達成。	131	130	99%	概ね達成	全国旅行支援により観光客が回復傾向にあることや、年間を通して品揃えの充実、商品の品質向上、イベント等の開催もあり、目標は達成。	135	140	104%	達成	コロナ感染症の規制緩和により観光客が戻ってきたことや、年間を通して品揃えの充実、品質向上、SNSを活用した情報発信、イベント等の通常開催もあり、目標は達成。	140	R6年			
(62)	6次産業化支援機関等が支援した新商品の流通・販売件数(累計) ※括弧内はうち米粉食品	件	30	H29～ R2年度	42	48	114%	達成	支援機関が連携して取り組んだことで、新商品開発件数が増加し、目標は達成。	72 (14)	83 (14)	115%	達成	支援機関が連携して取り組んだことで、新商品開発件数が増加し、目標は達成。	85 (20)	100 (25)	118%	達成	支援機関が連携して取り組んだことで、新商品開発件数が増加し、目標は達成。	100 (25)	R6年度			
11 流通販売・輸出促進																								
(63)	県産農林水産物へのペロリマーク等の使用品目数(R1からの累計)	品目	2,321	R1年度	2,360	2,423	103%	達成	県産農産物を利用した商品開発に取り組む事業者に対して周知を図る等の取組の結果、目標を達成した。	2,400	2,460	1	達成	県産農産物を利用した商品開発に取り組む事業者に対して周知を図る等の取組の結果、目標を達成した。	2,440	2,501	103%	達成	県産農産物を利用した商品開発に取り組む事業者に対して周知を図る等の取組の結果、目標を達成した。	2,480	R6年度			
(64)	地理的表示(GI)保護制度登録件数(累計)	件	4	R1年度	5	5	100%	達成	GI登録促進ワーキング会議等を通じ、GI登録(候補)製品の情報共有や課題の整理等を行った。目標は達成。	6	5	83%	概ね達成	GI登録登録促進を図るためのセミナーを開催した。新規登録された製品はなかったが、累計では目標は概ね達成。	7	5	71%	遅れ・未達成	GI登録登録促進を図るためのセミナーを開催したが、新規登録された製品はなく、目標は未達成。	8	R6年度			
(65)	東京都中央卸売市場における県産農産物(野菜・果実)の取扱金額割合	野菜% 果実%	1.38 5.13	R1年	1.39 5.29	1.21 4.85	87% 92%	遅れ・未達成	令和3年4月の凍害や令和3年5、6月の降雪による農産物への被害の影響等により、目標を下回った。	1.40 5.45	1.19 5.11	85% 94%	遅れ・未達成	コロナ禍で中断していた卸売市場でのトップセールスや首都圏での商談会を再開するとともに、大消費地での情報収集・分析、産地への情報提供などを実施したが、目標は未達成。	1.41 5.61	1.10 4.77	78% 85%	遅れ・未達成	卸売市場でのトップセールスや首都圏での商談会を開催するとともに、大消費地での情報収集・分析、産地への情報提供などを実施したが、目標は未達成。	1.42 5.80	R6年 R6年			
(66)	学校給食における交流給食の実施割合	%	30	R1年度	70	61.9	88%	概ね達成	各市町村の給食における交流給食の実施を支援したことにより、食育の取組みが浸透し、目標を概ね達成した。	80	53.7	67%	遅れ・未達成	各市町村の給食における交流給食の実施を支援し、食育の取組みが浸透してきているもの、目標は未達成。	90	69.3	77%	遅れ・未達成	各市町村の給食における交流給食の実施を支援し、食育の取組みが浸透してきているもの、目標は未達成。	100	R6年度			
(67)	県産農産物輸出額	百万円	828	R1年度	1,200	867	72%	遅れ・未達成	令和3年度は各国の経済活動が徐々に再開したことに伴い輸出量は過去最多となった。輸出額は過去5年間で2割目高い金額となったが単価の高い肉で伸び悩み目標を下回った。	1,300	1,051	81%	概ね達成	令和4年度はりんご等の輸出量が増加したこと、輸出量、輸出額ともに過去最高を更新し、目標は概ね達成。	1,400	未公表		1,500	R6年度					
基本戦略4「やまがた森林ノミクス」の加速化																								
12 人材育成・地域づくり																								
(68)	林業の新規就業者数(4年間の累計)	人	237	H28～ R1年度	70	61	87%	概ね達成	農林大学校で林業に就業希望の学生に「緑の青年就業準備給付金」を給付するとともに、新規就業希望者を対象にした講習会や、就業ガイダンスを開催し、目標は概ね達成。	140	133	95%	概ね達成	農林大学校で林業に就業希望の学生に「緑の青年就業準備給付金」を給付するとともに、新規就業希望者を対象にした講習会や、就業ガイダンスを開催し、目標は概ね達成。	210	193	92%	概ね達成	農林大学校で林業に就業希望の学生に「緑の青年就業準備給付金」を給付するとともに、新規就業希望者を対象にした講習会や、就業ガイダンスを開催し、目標は概ね達成。	280	R6年度			
(69)	複数の森林資源をパッケージ化した体験ツアーの数(累計)	件	1	R2年度	2	2	100%	達成	本県の豊かな森林資源や林業関係施設(製材所、木質バイオマス発電所)を活用した教育旅行パッケージ化され、目標は達成。	4	2	50%	遅れ・未達成	R4から県内の専門家で構成する検討会を開催し、森林サービス産業創出に向けた取組(森林資源を活用した体験型モデルツアー創出の検討等)を本格的に始めたところであり、目標は未達成。	6	4	67%	遅れ・未達成	R5から森林資源を活用した体験型モデルツアー実施に着手したが2件(累計4件)に留まり、目標は未達成。	8	R6年度			
13 県産木材の安定供給・森林の多面的機能																								
(70)	林業労働生産性	m ³ /人日	6.0	H30年度	6.6	6.9	105%	達成	県産木材の安定供給に向け、事業者の高性能林業機械等の導入やレンタル経費を支援による低コスト作業システムの推進により、目標は達成。	7.0	7.0	100%	達成	県産木材の安定供給に向け、事業者の高性能林業機械等の導入やレンタル経費の支援等による低コスト作業システムの推進により、目標は達成。	7.4	7.2	97%	概ね達成	県産木材の安定供給に向け、事業者の高性能林業機械等の導入やレンタル経費の支援等による低コスト作業システムの推進により、目標は概ね達成。	7.8	R6年度			
(71)	再造林面積	ha	95	R1年度	140	107	76%	遅れ・未達成	前年度の主伐面積がコロナの影響で減少し、R3の再造林面積の伸びが少なかったことにより、目標は未達成。	160	145	91%	概ね達成	再造林の支援強化等により再造林面積が増加し、目標は概ね達成。	180	未公表		200	R6年度					
(72)	森林経営管理制度に基づく森林整備を実施している市町村数	—	1	R1年度	10	3	30%	遅れ・未達成	森林整備を実施する前段として森林所有者の意向調査を行う必要があるが、所有者や林況が不明瞭な箇所が多く、調査対象森林の抽出などの準備作業に時間を要しているため、目標は未達成。	20	3	15%	遅れ・未達成	森林整備を実施する前段として森林所有者の意向調査を行う必要があるが、所有者や林況が不明瞭な箇所が多く、調査対象森林の抽出などの準備作業に時間を要しているため、目標は未達成。	30	5	17%	遅れ・未達成	森林整備を実施する前段として森林所有者の意向調査を行う必要があるが、所有者や林況が不明瞭な箇所が多く、調査対象森林の抽出などの準備作業に時間を要しているため、目標は未達成。	34	R6年度			
(73)	荒廃森林の整備面積	ha	1,112	R2年度	1,160	919	79%	遅れ・未達成	上半期の里山林における緊急伐採面積が計画より減少したこと及び単位面積当たりの施工費の上昇等により、目標は未達成。	1,160	889	77%	遅れ・未達成	間伐に係る人件費等の単位面積当たりの施工費が上昇し、計画より実施面積が減少したことにより、目標は未達成。	1,160	994	86%	遅れ・未達成	人工林整備面積、里山林整備面積とも前年実績を上回ったが、単位面積当たりの施工費の上昇等により、目標は未達成。	1,160	R6年度			
(74)	個別施設計画に基づく治山施設等の長寿命化対策率	%	0	R2年度	8	12	150%	達成	防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策を推進するに当たり、目標以上の対策工事が実施できたため、目標は達成。	16	22	138%	達成	令和4年度から機能強化・老朽化対策事業により、対策工事に着手したため。	24	55	229%	達成	令和4年度から機能強化・老朽化対策事業により、対策工事に着手したため。	32	R6年度			
14 県産木材の加工流通体制の強化・付加価値向上																								
(75)	JAS製品等出荷量(木材)	千m ³	77	H30年	92	95	103%	達成	JAS認定取得支援の結果、JAS認定工場の増加やJAS製材工場が増えに伴う出荷量の増加により、目標は達成。	96	82	85%	概ね達成	大手製材工場等で製材出荷量に伴い減少したが目標は概ね達成	98	76	78%	遅れ・未達成	建築物の着工数等が減少し、それに伴い製材品の需要が伸びなかったため、目標は未達成	100	R6年			

No.	評価指標(KPI) プロジェクト目標指標	単位	現状	基準 年・年度	R3 目標	R3年		R3 達成率	R3 達成度	R3 達成・未達成の理由	R4 目標	R4年		R4 達成率	R4 達成度	R4 達成・未達成の理由	R5 目標	R5年		R5 達成率	R5 達成度	R5 達成・未達成の理由	最終 目標	年・年度
						実績	達成率					実績	達成率					実績	達成率					
⑮県産木材の利用促進・特用林産の振興																								
(76)	民間施設の木造化率	%	37	R1年度	40	39.2	98%	概ね達成	県産木材を使用する店舗・事務所等の新築民間施設への補助金の交付など、民間施設の木造化推進により、目標は概ね達成。	43	35.3	82%	遅れ・未達成	ウッドショックにより製材品の入手が困難となり、木造建築物棟数が減少したため、目標は未達成。	46	35.4	77%	遅れ・未達成	ウッドショックの影響は収まりつつあるが、資材高騰が続く、木造建築物棟数が減少したため、目標は未達成。	50			R6年度	
(77)	木質バイオマス供給量	千t	202	R1年	227	182	80%	遅れ・未達成	R2にコロナの影響で木材の流通が停滞し、製材所向けの材が木質バイオマス施設に多く流れ在庫を抱え、R3の供給量が減ったことにより、目標は未達成。	240	179	75%	遅れ・未達成	ウッドショックにより原木需要が増加した製材用、集成材用を主とした供給体制となり、相対的に木質バイオマス用原木の供給量が減ったことから、目標は未達成。	252	206	82%	概ね達成	木質バイオマス施設の需要に対応するため、素材生産量が増加したことにより、目標は概ね達成。	265			R6年	
(78)	山菜・きのこの生産量	t	10,400	R1年	10,600	8,995	85%	遅れ・未達成	生産基盤整備の支援、生産者研修会、栽培技術指導など、生産振興を図ったものの、多くのキノコ類価格は下落傾向にあることや産地間競争の激化により、目標は未達成。	10,700	8,688	81%	遅れ・未達成	生産基盤整備の支援、生産者研修会、栽培技術指導など、生産振興を図ったものの、産地間競争やコロナ禍による外食需要の減少などから、目標は未達成。	10,900	7,641	70%	遅れ・未達成	生産基盤整備の支援、生産者研修会、栽培技術指導など、生産振興を図ったものの、産地間競争や生産コストの上昇などから、目標は未達成。	11,000			R6年	
基本戦略5 水産業の成長産業化																								
⑯海面漁業																								
(79)	経営体あたりの海面漁業生産額	万円	695	H30年	772	617	79.9%	遅れ・未達成	令和3年は全国的に水産資源(サケ、イカなど)が不足し、本県においても主要魚種であるスルメイカ、サケ、タラ、ハタハタの漁獲量が大きく減少した。	798	621	78%	遅れ・未達成	本県の主力魚種であるスルメイカ、ハタハタの漁獲量が大きく減少したことにより目標は未達成。	824	630.8	77%	遅れ・未達成	本県の主力魚種であるスルメイカ、サケの漁獲量が大きく減少したことにより目標は未達成。	850			R6年	
(80)	ブランド魚種の平均単価	円/kg	2,529	H30年	2,877	3,099	108%	達成	R3については、ズワイガニの単価が大きく伸びたことが全体の単価を押し上げた。	3,051	2,873	94%	概ね達成	ブランド魚種(3種)のうち、トラフグの単価が昨年より大きく下がったが、全国的な不漁の影響によりサワラの単価が大幅に伸びたため、目標は概ね達成。	3,225	3,309	103%	達成	ブランド魚種(3種)のうちズワイガニの単価が大幅に伸び、サワラ、トラフグも高単価を維持したため	3,400			R6年	
⑰内水面漁業																								
(81)	「ニジサクラ」の成魚出荷尾数	尾	50	R1年度	630	30	5%	遅れ・未達成	不適切な種苗の混入と魚病発生による生産減	5,600	400	7%	遅れ・未達成	成育過程での魚病の発生と豪雨災害による流出による生産減。	12,000	3,184	27%	遅れ・未達成	高温と豪雨災害による流出による生産減。	12,000			R6年度	
⑱県産水産物の利用拡大																								
(82)	県産水産物の県内陸部における流通割合(市場内流通量)	%	6.3	R1年	8.0	4.2	53%	遅れ・未達成	水産資源の減少とコロナ禍による県内需要の減による出荷減	9.0	3.7	41%	遅れ・未達成	継続した取組みの結果、加工品の取扱量は増えたものの、漁獲量の減少により、鮮魚と冷凍魚の取扱量が減少したため、目標は未達成。	10.0	3.5	35%	遅れ・未達成	スルメイカの漁獲量が減少	11.0			R6年	
⑲水域環境の確保・活用																								
(83)	遊漁証の発行枚数	枚	11,199	R1年度	12,200	10,379	85%	遅れ・未達成	コロナ禍による移動制限の影響	13,480	9,116	68%	遅れ・未達成	内陸部を中心に令和4年8月豪雨の影響と暖冬によりワカサギ釣りの不振により遊漁者が減少したため、目標は未達成。	14,240	8,935	63%	遅れ・未達成	コロナによる制限は解除されたものの、夏は酷暑により釣り人回復ならず、また暖冬によりワカサギ釣りが不振となり、目標は未達成。	15,000			R6年度	